

資本主義は社会主義に必ず変わる

『空想より科学へ社会主義の発展』に学ぶ

第6回 東京ブロック

弁証法的唯物論

なぜ弁証法的唯物論か

司会Ⅱいよいよ今月から「第二章 弁証法的唯物論」に入ります。なぜ、ここにエンゲルスが弁証法を持ってきたのか、これまで担当したFKさんから補足してください。

FKⅡ社会主義が空想的社会主義から科学的社会主義へと発展してゆくことを理解するためには、まず目の前にある社会的現実をありのままに把握するとともに、発展的に捉えるという弁証法的思考がどうしても欠かせないからです。

司会Ⅱこれらを踏まえて、第二章で私たちは何を学ぶのか、概略を報告してください。

HTⅡエンゲルスは、偉大なる空想的社会主義者であったサン・シモン、シャルル・フーリエ、ロバート・オーウエンは、「理性」や「正義」に訴えた啓蒙主義者と同様に、「特定の階級（労働者階級）を解放しよう」といって、いきなり全人類を解放しようとして失敗したのだと指摘しています。社会主義を「科学」にするためには、歴史的、論理的に、現実の経済的狀態を分析する理論的準備が必要だったか

を述べています。自然も、社会も、人間の精神（思维）も、常に運動し、変化し、発展しています。この運動を統一的に明らかにした哲学が「弁証法的唯物論」です。エンゲルスは、この章で歴史的・論理的にわかりやすくまとめています。

弁証法、形而上学とは

GOⅡまず誰か「弁証法」とか「形而上学」を簡単に説明してもらえますか。司会Ⅱそうですね。哲学用語ですから、簡単に概念規定を説明してください。



ヘーゲル

HTII「弁証法」は「ディアレクティーク」の訳語です。ディアという接頭語には「ある事柄に多数の人が参加する」という意味があり、「ディアレクティークを直訳すれば「問答法討論術」ということになります。討論とは多数の人が論じあい、ある事柄を論証することです。

弁証法という訳語は、討論によりある事物を論証するという意味をもたせた訳語でしょう。古代ギリシヤ哲学者は「ディアレクティーク」により世界のすべての現象を動かす根源を追求しました。この言葉を訳した人は、その意味をも含めて「弁証法」と訳したのでしょうか。そして、ヘーゲルが弁証法の体系を發展させました。しかし、観念論者であったため、逆立ちした世界観を描写しました。そのため唯物弁証法を解く鍵が必要だったのです。マルクスがその唯物弁証法を解明したのです。

GOII それでは「形而上学」とはなんですか？

SKII それはテキスト(P54)にあります。事物を静止・固定したものと、ベーコンやロックによりこの考え方が哲学に移入され、形而上学的思考が産み出されました。当時の自然科学が「力学」だけでしたから科学の發展がなかった時代の限界(發展・変化を検証できないため)と言って良いかと思えます。もともと今日でも形而上学的思考方法は蔓延し、すべてのものは変化し發展することを否定する人があります。日常生活では結構、形而上学も役には立つんで、例えば、列車やバス、航空機などの時刻表がそうですね。これが日夜違っていたら大混乱を招きます。形而上学の基礎は、事物を静止、固定で考え、「しかり、しかり、否は否と言え、これを過るは悪より出ざるなり」と、ちよつと分りずらい表現ですが、変化・發展はまるで悪魔をあつかうように矛盾を認めない思考方法です。「木を見て森を見ない」(P55)と、テキストでは、形而上学的思考の誤謬を適切に批判しています。

司会II 基本的な概念は以上です。

HGII 概念規定など、なぜ、私たちが学ぶ必要がありますか？

TKII そうですね。難しいかもしれないが、概念規定は覚えるしかない。

「青は進め」「赤は止まれ」は誰でも知っているし、万国共通です。覚えてしまえば、日常生活にも有用性はあり、哲学とは難しい学問ではなく、現

在の現象のみ切り取って観るのでなく、過去―現在―未来と歴史的・論理的に観る「もの」の見方・考え方を学ぶ必要があります。なぜかという、私たちは資本主義社会で生まれ、ブルジョア教育を受けてきました。先ほど触れたように日常生活では「形而上学的」生き方に馴らされています。だから、他との関連性もわからず、点取り教育で育ちました。

これからやるのは、学校教育では教わらない「唯物弁証法」を学び、弁証法的思考方法を身につけ、私たち一人ひとりが明日を、未来を予見できるようにするための学習です。この社会の担い手である勤労者が、どうしたら人間らしく生きられるのか、その原因と解決方法をこの本書で学びます。

猿から人間へ、階級社会の発生

司会Ⅱそれでは本書の内容に入りたい

と思います。

UⅡ「古代ギリシャの哲学者たちはいずれも天性の弁証家で、とくに博識だったアリストテレスは弁証法的思惟の最も重要な形式をすでに研究していた」とあります。古代ギリシャについて詳しく教えてください。

SKⅡエンゲルスは1876年著名な『猿が人間化するにあたっての労働の役割』を著しています。詳しくはこちらをお読みください。200万年以上前のアフリカの熱帯林に高度の進化を遂げた猿の一種が樹上生活をしていた。それが何らかの原因で猿は平地生活に移り、直立歩行をはじめざるを得なくなった。これが猿から人間への移行にひとつの決定的な第一歩となった。手が自由となり、食物を採取する器官となることにより、その機能は発達し、労働の補助具である石器がつくられるようになり、動植物採取能力は飛躍的に高まった。この労働の発達は相互扶

助や共同作業の集団をつくり、会話のため、発声器官が発達し、意節にわかれた言語が生まれたと言われています。原始共産制社会は、約200万年続きました。人類社会が階級社会になったのは5千年前と言われています。

質問は古代ギリシャについてですね。紀元前8世紀頃から地中海近くのギリシャやローマで文明が発達してきました。ギリシャでは各地に、いくつもの独立した都市国家（ポリス）が出現。なかでも、アテネとスパルタという2つのポリスが、とても有力でした。そして商工業が発達して、平民や兵士の力が強くなりました。

ポリスのうちの一つであるアテネでは、18歳以上の男子の市民による直接民主政治（デモクラチア）が行われました。一方、ギリシャには、奴隷が多かった。奴隷は、民主政治には参加できなかった。奴隷は人口の3分の1もいました。民主政治に参加できたの



ギリシャ、パルテノン神殿

は、市民や兵士などの特権階級だけでした。スパルタなどの、他のポリスでも、似たような市民や兵士という特権階級による民主政治が行われました。

文化面では、ギリシャ文字が使われ、演劇や建築、物語なども発達し、神話もでき、議論、哲学、数学などの学問もさかんになりました。そして、哲学者のアリストテレスやソクラテス、歴史学者のヘロドトスなどの学者がギ

リシャ文明から出てきました。

T K II 地中海沿岸を中心に広範囲で古代ギリシャ国家が建設され、市民や兵士などの特権階級（支配階級）と奴隷階級（被支配階級）で成立していたことがわかりますね。奴隷は、人権が認められておらず、牛馬と同じく労働手段・労働の道具でした。

司会 II 古代ギリシャ哲学者が唱えた原始的で素朴な世界観とは何ですか。

H T II 自然を、人類史の相互関連、相互作用との無限に錯綜した姿と見、もとの有様にとどまっていけないとして、すべては動き、変化し、生成し、消滅する、と説きました。

ヘラクレイトスは、万物は存在し、また存在しない。なぜかといえば、「万物は流転するから」と、それは常に変化し、常に成長し、常に消滅しつつある、と説きました。

なぜ弁証法の見方が形而上学へ

司会 II この弁証法的な見方・考え方が、なぜ形而上学へ流れたのですか。

M II ヘラクレイトスの見方は、現象の全体像の一般的性格を正しく把握してはいるが、全体像を構成している個別を認識するのは、自然科学や歴史研究の任務です。しかし、古代ギリシャ時代には科学が未発達のため難しかった。

しかし、精密な自然科学はアレキサンドリア時代（紀元前3世紀から紀元後3世紀頃）のギリシャ人がやるようになった、と記しています。

U II ほんとうの意味の自然科学の始まりは、15世紀の後半以降です。以来加速度的に進歩した自然科学は、哲学の世界に影響を与え、全体的把握の外で事物を認識する習慣を残しました。したがって、それらの運動を、静止の状態、固定の状態、そして死の状態にとらえた。この考え方が形而上学的思惟方法を生み出しました。

司会Ⅱその形而上学的思惟方法とはどういうものですか。

MⅡ形而上学者にとつては、事物は個々ばらばらに、一つずつ、他と関係なしに、観察すべき、固定した、動かない、永久不変の研究対象である。事物は存在するか、存在しないかである。肯定と否定とは絶対的に相排斥する。原因と結果ともまた互いに動きのとれぬ対立である、という考え方です。

SKⅡ解剖や医学の分野では、形而上学的思惟方法が一般的でわかりやすいし、それで発達してきたことも事実です。すね。

TKⅡそれは事実だと思います。だが、事物の認識において、他との関連性を抜きに存在することは、自然界においてはあり得ません。今日の科学の発展で余すところなく、それらは説明されています。

鉄の塊である飛行機を飛ばすことができるのも、大型船で航海できるのも

すべて自然弁証法を理解し、人間が応用したからできることだと思えます。

SKⅡ自然界はTKさんが言うように弁証法的に運動していることは、科学者は誰でも、また誰よりも理解していると思えます。

しかし、社会について弁証法的に運動し、変化し、発展するとは誰も言いませんね。なぜでしょう。

TKⅡそれは、今日、資本主義社会が変化し、社会主義社会に発展すると教えることは支配者にとつて都合が悪いからです。

弁証法的唯物論の三大法則

司会Ⅱ弁証法とは、すべては運動し、変化し、発展するという見方ですね。なぜ、そうなるのか、どのような運動をするのか、簡単に説明してください。

MⅡマルクスが発見した「唯物弁証法」は、一言でいえば、存在一般の運

動法則を説明する哲学といつてよいと思えます。この存在とは、先ほどから論議されてきた自然だけでなく、社会のすべてを包括します。人間の精神、意識もすべてです。

事物の存在形態は運動である。それではこの「運動」を起こす原動力は何かです。重力を発見した古典力学の祖ニュートンすら説明できず、著名な「神の一撃」に頼らざるを得なかった。ものの運動が外部の力によるものとするれば、究極は神に頼り、観念論になります。

弁証法は、「もの」自体の内部に存在する「矛盾」に求めました。もの自体の内部にAとBの矛盾が発生すれば、AとBはどちらかがたおされ、矛盾が解消されるまで相たたかう。この闘争が事物発展の原動力です。統一され、矛盾は解消される。この統一とは、相手を消滅させて達成されるのではなく、相手の発展の芽を吸収して、より高い

◆みんなの学習講座



量から質への転化（水→水蒸気）

次元での統一です。弁証法ではこのため統一を止揚（アウフヘーベン）という概念を使っています。しかし、「統一」は一瞬であり、統一の瞬間、新しい対立物が発生し、新しい矛盾が生まれ、闘争が生まれます。この連鎖により事物は運動するのです。矛盾は弁証法の根本となる第一の概念であり、その運動は外部の運動と必ず相互関連します。

次に、事物の運動は一本調子に徐々に変化するのではないです。量的変化が一定の限界に達すると、漸次的変化は中断され、飛躍が起こります。量か

ら質への転化です。水を熱すれば漸次温度が上昇し、100度になれば沸騰し、さらに、熱を加えれば、水蒸気になり蒸発します。液体の水は、気体に飛躍し、質が変化します。この「飛躍」が大切です。

自然現象では量質転換は、日常的に行われています。マルクスは社会現象では、マクロでは「革命」であり、封建社会は内部矛盾により資本主義社会に飛躍転化した。そして資本主義社会も内部矛盾により社会主義社会に飛躍し変化発展すると発見し、社会主義を「科学」にしました。

さらに、弁証法的運動は、直線的に進むものでなく、ある事物が否定され生まれたものが、さらに否定されるといふ円環の形をとります。植物の種子は、土に蒔かれ植物となる。これが第一の否定です。その成長により植物は否定（第一の否定）され死滅するが、種子は数百、数千倍になって残ります。

はじめの種子（A）と第二の種子（A）はちがうのです。否定の否定の法則は螺旋状発展の形をとります。

以上、弁証法的運動は、三つの法則（矛盾、量質転換、否定の否定）を別々に理解しても無意味です。自然も社会も、そして人間の精神をも含めて、運動を展開しています。その運動の原動力はそのものの自体の内部矛盾であり、外部の運動と相互に関連し、運動の形は量質の転換、否定の否定という螺旋状運動となるということをしっかりつかむことが大切であり、木を見て森を見失ってはいけない。森全体の運動をまず把握することが大切と、エンゲルスは訴えていると思います。

次回は、「これこそ彼の偉大な功績である」と、エンゲルスが称え学んだヘーゲルの弁証法について学びます。